

# もしあき

もし秋子さんが祐一の隠してた  
官能小説を読んだら





話は…  
十数分ほど前に  
さかのぼります



もっ…  
祐一さんたら

お洗濯も  
ごんなに  
遅め込んで



あ…っ

枕元…  
何かしら？



文庫本ね

祐一さん  
どんな本を  
読んでるのかしら

秋子は和式便器で用を足すように祐の顔に跨るとその濡れそぼった秘所を指でくつろげると祐一の口に押し付ける。  
「さあ祐くん、叔母さんのオマンコなめて。うふふ、上手にペロペロ出来たらご褒美を上げる。」  
「…ご褒美…」

少年はその甘美な響きにゴクリと唾を飲み込むと目の前で蜜を滴らせて雄を誘う秘裂に舌を伸ばす。  
「あん」

弾力ある舌先が秘裂に触れると思わず甘い吐息が漏れてしまふ。そして少年の舌が軟体動物のように秘裂に沿って這い回るとその熟れた花弁が徐々に花開いていく。  
「ああん、い…いいわ祐くん。凄く上手よ」

秋子は祐の顔に雌蜜を塗りつけるように腰をくねらせる。

秋子の嬌声に気を良くしたのか遠慮がちだった舌使いが大胆になっていく。

「あ…ご褒美、すこい。」  
祐くんたらどこでこんなエッチな舌使いを覚えたたのかしら」

秋子も甥の少年に秘所を舐めさせるという背徳的な状況にその身体を熱く燃え上がらせていく。

「はあん、祐くんのペロペロが凄く上手だから…叔母さんも祐くんにご褒美上げたくなくてきちゃったわ」  
ご褒美と言う言葉に反応したのか祐の舌使いが更に激しくなっていく。

「やあん、そんなに焦らなくていいから…うふふ、叔母さんに祐くんのオチンチン見せて」



これって

やっ…  
やっ…

か…官能小説って  
奴ですよね

ドキ

やだ…この本の  
女の人の名前

秋子は少年の若い肉竿にその細い指を絡めるとゆっくりと、優しく上下に扱き始める…  
「あ…秋子さんっ」  
初めて女性に触れられた甘美な刺激に上擦った声を上げる祐。

「やだ、祐くんたら女の子みたいな声出しちゃって」  
私と同じ  
じゃない



「叔母の誘惑」で…  
祐一さんごんなモノ  
読んで…

わ…私のコトも…  
こないやらしい目で  
見ているのかしら？

気が付くと私は  
小股から目が  
離せなくなる！



本の中の  
秋奈の自分さ...  
重宝にしてしまっし...

あつ...  
秋子ちゃん...

いれなうと  
ダメです

祐一さんが  
私の下着を盗んで  
オナニーしてたなんて...  
おぼさん  
ショックだわ



△ミミ△

ああ...  
二つねなさい

こんなイケナイ子には  
キツイお仕置き  
しないとダメお



オチンチンこんなに  
大きくして  
何がダメなのかしら？

おんちん



あらあら  
オチンチンまだ  
大きくなるわ

わかってるの？  
これはお仕置き  
なのよ

ア...アモ  
それなに  
されたらあ

うふふ  
私がいって  
言うまで射撃しち  
いけませんよ

ズンズン

でも...  
見れば見るほど  
立派なおチンチン♡

祐一さんが  
こんな凶悪チンポを  
持ってたなんて♡

可愛らしい声  
出しちゃって  
おチンポ  
へロへロされるの  
初めて?

あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...



この先  
このおチンポで...

沢山の女性を  
啼かせていくのぉ♡

あ♡



いっばい可愛い声  
聞かせて下さいねぇ♡

あつ...秋子ちゃん♡  
それなに寄しく  
舌を動かすならあ♡

はあ♡

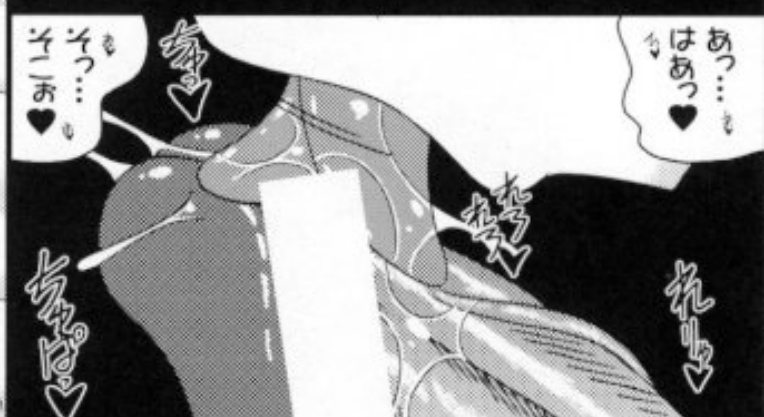


あつ...  
はあ♡

あつ...  
はあ♡

ああああ  
舌で優しく  
へロへロしてる  
だけでまよ♡

今からぞんなんじゃ...  
これからの事に  
耐えられるのかしら♡







今日から私が  
祐一さんの射撃管理  
しますから…  
私の許可なく  
オナニーしたら  
いけませんよ♥

でも…  
勝手に出てく  
お仕置きし  
言いきりな  
あ

あぁ…  
それなあ…



うふふ♥  
童貞くんホ君は母  
さつかっただかしら♥

千んホとルク  
こびりこびり手♥











やあ... 言わないで

魅目っ... 来ないで!

その本... 俺のお気に入りなんですけど 秋子さんも気に入ってくれたみたいですね

それにしても 秋子さん... 結構激しいんですけど

かみむねの じりりとした口調が 見いっちゃいましたよ



ゆっ... 祐一さん どうして?

財布忘れて 慌てて戻って きたんですけど...

部屋のドアが開いて... 中から愛な声が 聞こえたから 覗いてみたら...



まあ俺も 無理矢理するのは 嫌だから秋子さん 次第ですけど

あま

て... てんや!

責任のせい くれませぬ

トクニ...

トクニ...

今こんなの 見せられたら... 私ち我慢出来ない

ああ... 祐一さんの腰く 大きくて硬い!



おかげで俺の も こんなになっちゃい ましたよ

やあ... さんの 出さないで

ぬっ

どうですか 秋子さん 俺のチンポ

小説の主人公 にも負けてないと 思うけど

だ... だめ

あ



これらのおっぱいが  
漏れて来るほどで  
たしなむに任せてますわ♥

良くてき  
ました♥

おっぱい♥

おっぱい♥

こぼれちゃう  
引き寄せないのね...

私...祐一さんに  
言われるがままに  
学校に連絡して...



どうも  
眠りますわ

今日は学校の方  
休ませて  
いただきますわ



はい  
そうですわ...

♥



んん...  
し...舌絡めて  
さくらめえ...

ああ...私...  
祐一さんと  
キスして...

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



ちゅっ...

秋子さんが  
童貞の俺を  
優しくリード  
して下さるわ♥

んんん?



ああ...  
そんなと  
舐めちゃう  
汚いわ...

そんなこと  
ないよ

ふん...  
発情した女の  
味がするよ

やあん...  
祐一さんの  
意地張る



ぞ...そんなと  
見つめられたら...

濡く軟らかく  
気持ちいい♡

秋子さんのおっぱい  
大きいから両方  
いっぱい舐められるわ♡

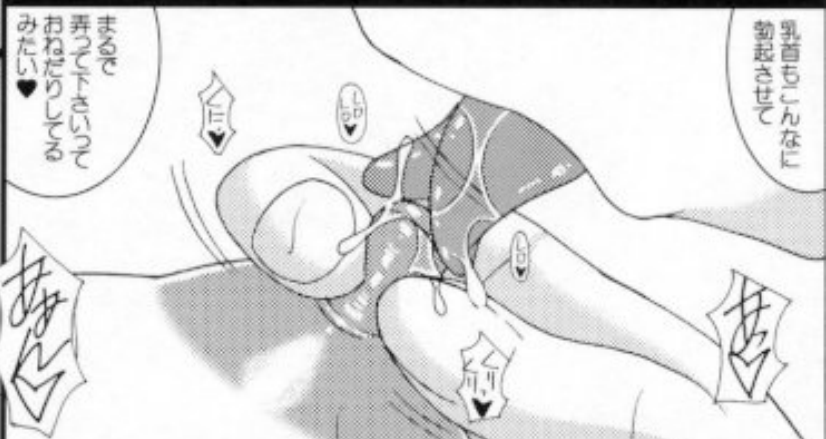


はあ♡  
これが夢にまで  
見た秋子さんの  
おっぱい

やあん...

もみ♡

もみ♡



乳首もこんなに  
勃起させて

はあ♡  
おっぱい  
おっぱい  
おっぱい♡

はあ♡  
祐一さんの  
おっぱい  
舐めたい...

はあ♡  
おっぱい  
おっぱい♡



俺なんかの  
愛撫でこんな  
悶えて

秋子さんも  
潤まってるん  
ですね♥

ほのぼの  
「おはね」  
と、俺のチンポ？  
秋子さんのおへそ位  
まであるでしょ♥

これで秋子さんの  
オマンコ突きまくったの  
気持ちいいわな♥

ニ…テなの  
って♥

ラ！  
ラ！

今日は俺のチンポで  
おもしろいスツキリ  
して下さい♥

あっ…ああ  
でも…

やっ…やだ…  
祐一さんの…

さっ…さっ…  
大きくなして…

やあ…こ…  
「こんな」は  
オチンポ細いで…

こ…こんな  
モノ入れたら…  
私どうなるの!?

そっ…  
そのまま腰を  
降ろして  
ふんふん♥  
あの本みたいに  
俺の童貞優しく  
奪って下さいね

ああ…しちやうの  
私…本当に祐一さんと  
しちやうの!?

おき

おき

自分から  
祐一さんのオチンポ  
入れるなんて…





手伝ってあげますよ♡



こ…これ以上入らない…!

仕方ないですね



おまかせ♡

んん♡



そんなんじや身体がもちませんよ♡

一突きてイッちやっただんだ♡

な…中が…祐一さんのでいっぱいになって…

こ…こ…このダメ♡♡♡



そっ♡♡♡

んん♡♡♡

そっそんなういきなり奥までっ!

♡♡♡♡♡





あゝあゝあゝ

はる



んんんんん  
まっ...  
待って...

ダメです

俺も気持ちよく  
なりたいたまからな



あゝ



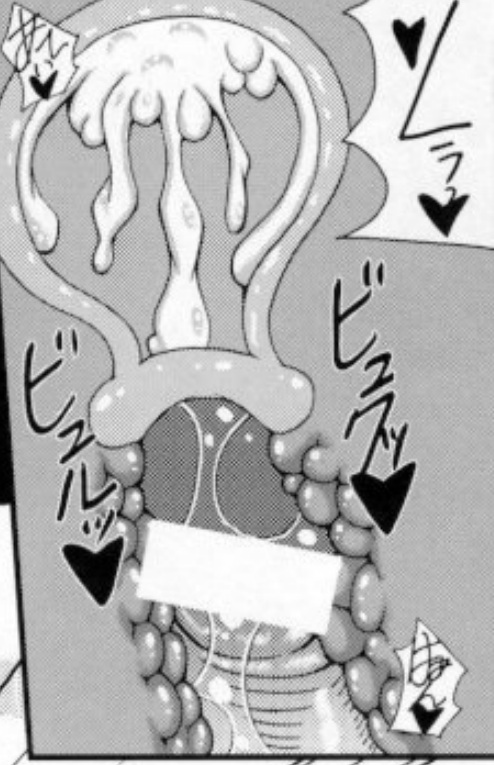
んんんんん  
おっ...そんな  
奥ばかり突いちゃ

らっ...らっ  
初めっ





イッパツイッパツ♡



ビュルッ♡

ビュルッ♡

♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

秋子さなは  
たじろり味わっ  
もらいますからな♡



♡♡♡  
♡♡♡

これで終わりじゃ  
ないですよ。  
まだまだガチガチの  
若い童貞チンポ

♡♡♡

私の…  
悪夢のような1日は  
まだ終わりません  
でした…

そっ…そんなに  
見ないでよ

あんなに  
おっぱいを見せられて  
やっぱり生で見る  
裸上フロンは  
迫力が違いますね

秋子さんのお尻…  
エッチな味がない  
薄く美味しいよ

おっぱいは…  
ご飯の前に  
秋子さんを撫み喰い  
しちゃおう

「おっぱい」  
「お尻」  
「おまんこ」  
「おまんこ」

ああん…  
やあっ

れろろ

はるる

おっぱい

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ



はい  
あーん

やあ  
そんな子から  
ズンズンされたらあ...

やあん  
く...口から  
零れちゃった

デザートは...  
秋子さんの子宮に  
たっぷりミルクを  
こ馳走してあげますね

口移して  
食べる「飯は  
格別だね...

これからは  
二人きりの時は  
こうしようね

まんを

そんなっ  
ああっ

わ...私も  
イクっ

ズツッ

ズツッ



お前さんか...

こ...  
どうですか?

ああ...  
いいよ  
秋子さん

「ひびき」  
胸元にして  
おかないとね

わっ...  
わっ...  
わっ...

しゅわ

お尻の...  
お尻を後で  
たしなめて調教して  
あげますからね

じゃあ次は  
チンポ洗って  
ちぢるんその  
大きなおっぱい  
でね

はき  
「ひびき」  
お尻を洗って

んん

ん

んん  
んん  
んん

んん

んん



そして私の部屋に場所を移した後も...

股れを知らない祐一さんの若い肉体は徐々に私を犯しました

そっ...っ  
そんなっ  
はあん♡

は...激しくっ  
しなれっ♡



秋子さんのベッド  
大きいからセックス  
しやすくていいですね♡

「これからは  
ちゃんちゃん  
お邪魔しますね♡



らっ...らめっ  
イクッ♡

イクッ♡



ちつイキッ  
ばなしたね♡

いっ...今  
イッてるから  
スンスン  
しなれえ♡

ははは



秋子さんのオマン「  
俺のチンポに馴染んで  
きましたね♡」  
どうですか？  
秋子さんも堪らない  
でしょ♡

はひい♡  
すっ...走い  
こっ...こんなの  
知らない♡

ズン

ズン









Presented  
by  
紀霊なお姉さん